

第 68 回日本生殖医学会学術講演会・総会

P-017

金沢 2023.11.9-10

タイトル：ホリトロピンデルタを用いた採卵周期の採卵個数と患者背景や臨床経過についての検討

演者：寺脇 奈緒子、脇川 晃子、姫野 隆雄、森本 篤、北山 利江、小宮 慎之介、浅井 淑子、井上 朋子、森本 義晴

本文：

【背景】ホリトロピンデルタ（以下 δ ）は至適採卵個数を 8-14 個として一日投与量が体重と AMH から個別に設定されている。しかし、高 AMH にも関わらず至適採卵個数を下回る症例をしばしば経験する。そこで δ 周期の採卵個数と患者背景、臨床経過について検討した。【方法】2021 年 4 月から 2023 年 5 月に AMH が 2.0 ng/ml 以上で、当院で δ のみで刺激し PPOS 法または Antagonist 法で採卵を行った 104 症例 117 周期を後方視的に解析した。【結果】採卵個数が 8 個以上（良好群）は 73 症例 77 周期（66%）、7 個以下（低反応群）は 34 症例 40 周期（34%）であった。良好群と低反応群で年齢、体重、分娩歴、不妊期間、基礎 FSH、AMH に有意差を認めなかった。低反応群では刺激日数が長く刺激量も多い傾向を認めた（良好群 8 [8, 9] 日、低反応群 9 [8, 11] 日、 $p=0.08$ 、良好群 54 [48, 67] μg 、低反応群 60 [49, 96] μg 、 $p=0.07$ ）。卵巢過剰刺激症候群は、低反応群で 8 周期（軽症 7 周期、中等症 1 周期）、良好群で 37 周期（軽症 29 周期、中等症 8 周期）に発症し、良好群の 1 周期で入院加療を要した。また低反応群 34 症例のうち、前後 1 年以内にホリトロピンアルファ（以下 α ）で採卵した 14 例で δ 周期と α 周期を比較すると、採卵個数は δ 周期 4.7 ± 1.7 個、 α 周期 9.6 ± 4.6 個と有意に α 周期で多かった（ $p=0.003$ ）。刺激量も δ 周期 60.0 [48.7, 72.5] μg 、 α 周期 112.9 [105.9, 127.9] μg と α 周期で有意に多かった（ $p=0.0002$ ）。低反応群であっても、 δ 周期で獲得した胚を移植し終えた 29 症例のうち 11 症例が妊娠継続中または生児を得ていた。【結論】高 AMH 群でも 34%の周期で採卵個数が 7 個以下であったが、事前の予測は困難であった。そのような症例でも α 周期ではより多くの卵子を採取可能であった。